

## 雜報

## ◎人 事

從四位勳四等 津 田 誠 次  
敍勳三等授瑞寶章

(十一月一日)

從七位勳六等 安 井 雅 一  
愛媛縣防空委員會委員ヲ命ス

(十一月八日)

陸軍軍醫中佐 田 村 槿 五 郎  
臺灣中央防空委員會幹事ヲ命ス

(十一月五日)

陸軍軍醫大尉 關 谷 重 幸  
賜二級俸

(十一月十日)

岡山醫科大學教授 根 岸 博  
本俸四級俸下賜

(十一月二十五日)

陸軍軍醫少將 齋 藤 清  
豫備役被仰付

(十一月三十日)

海軍軍醫少佐正六位勳五等 有 馬 立

海軍軍醫少佐正六位勳五等 木 村 芳 雄  
任海軍軍醫中佐

岡山醫科大學助教授 濱 嶠 幸 雄  
本俸四級俸下賜

(十一月一日)

○中島達二君 は豫て滿洲撫順醫院に勤務し居られしが今般滿洲敦化に新設せられたる敦化醫院内科醫長に轉勤せられたり

○高橋 勳君 豫て岡山醫科大學衛生學教室に於て研究中なりし同君は今般德山市德山簡易保險相

談所に勤務せられたり

○松森 明君 は豫て吳市に於て開業し居られしが今般堺市寺地町に移轉開業せられたり

奥山美佐雄君逝く 君は大正15年岡山醫學専門學校を卒業し母校生理學教室に入り研究し岡山醫科大學に於て學位を受領し倉敷労働科研究所神戸市立衛生試驗所等に勤務し本年初めより病に罹り其職を辭し郷里に於て靜養中なりしが醫療其效を奏せず本月25日遂に永眠せられたりと寔に痛惜に禁へず謹みて茲に弔意を表す

## ◎學位授與

藤見忠彦、宮島忠の兩君は豫て論文を岡山醫科大學に提出し學位を請求し居られしが藤見君は本年11月1日の教授會、宮島君は本年12月6日の教授會を通過し前者は本月10日附、後者は本月23日附を以て孰れも醫學博士の學位を授與せられたり其主論文及び參考論文は次の如し

藤見忠彦君

主論文

腐敗ニ關スル研究

其1 鶏卵腐敗ニスル研究（岡山醫科大學歐文業府第4卷第4號ニ發表セリ）

其2 蝦魚肉腐敗ノ研究（岡山醫科大學歐文業府第5卷第3號ニ發表セリ）

参考論文

其1. 「アントラツエン」並ニ其ノ誘導體ヲ内服

- セル家兎尿中硫酸ノ態度ニ就テ（本誌第47年第3號ニ發表セリ）
- 其2. 「チスチン・フラビアナート」ニ就テ（本誌第49年第6號ニ發表セリ）
- 其3. 黄磷蒸氣ノ牛肝自家融解作用ニ及ボス影響ニ就テ（本誌第46年第3號ニ發表セリ）
- 其4. 肝臓「デストマ」病家兎血中ノ「フィブリノゲーン及ビ「トロンビン」量ニ就テ（藤見忠彦、西崎武亥一著者）（本誌第46年第5號ニ發表セリ）
- 其5. 犯罪者ノ血液型ニ關スル知見補遺（重信琢雄、藤見忠彦共著）（行刑衛生會第7卷第3號ニ發表セリ）

宮島 忠君

主論文

- Aligochaeta 及ビ Nematoda ノ新陳代謝ニ就テ
1. 蚯蚓ノ新陳代謝ニ就テ（追テ本誌ニ發表ノ豫定）
  2. 蛭蟲ノ新陳代謝ニ就テ（追テ本誌ニ發表ノ豫定）

参考論文

1. 「サントニン」ノ驅蟲作用機轉ニ就テ（追テ本誌ニ發表ノ豫定）
2. 蓬根中ノ被酸化物質ニ關スル知見補遺（追テ本誌ニ發表ノ豫定）
3. 「エルゴステリン」ノ「アセチールヒヨリン」ニ對スル拮抗作用ニ就テ（追テ本誌ニ發表ノ豫定）
4. 昭和7年度神戸東山病院ニ於ケル赤痢及ビ痙痢様疾患ノ細菌學的疫學的觀察（追テ本誌ニ發表ノ豫定）

獨逸通信 第8

小田 大吉

田中先生 6月25日

2月早々ハノブルグからフランクフルトに参りまして50日間程、主としてフォックス教授の教室を見学致しました。其の當時筆を執る機会を逸しましたのでつい延々になり、大變遅れて申譯ありませんが、同教室の模様を大體御報告申上げます。

フランクフルト フォックス教授教室

フランクフルトには2月3日に参りました。かねて「アンメルデン」しておきました様に、4日10時頃フォックス教授をザクセンハウゼンの市立病院大學醫學部に訪ねますと、フォックス教授は丁度手術室で「アリバート」の患者の處置中でしたが、すぐ御引見下すつて、暫らく見学するお許しを得ました。

先生の御紹介状を差出しますと、繩帶交換の後でお部屋で讀まれて『有難う、實にうまい獨逸語です。貴下の「セフ」は實に流暢な獨逸文を書いて居られる』と云はれ、小生が『私の先生は4,5年前貴下を訪問されたのですが、御留守中だつたさうで殘念がつて居られました』と申しますと『知つて居る。自分が居たら御案内したのに』と云つて居られました。其の日は11時から講義がありますので聽きに行きますと、學生に私を紹介されて（學生は足を「バタンバタン」とやります。これが歓迎の意味ださうです）講義が始めました。扁桃腺問題ですが自分の研究に立つて仲々科學的な講義で、フォン・アイケン教授の講義よりも餘程感心しました。仲々氣のつく方と見えて、講義中につつと前に私が報告をしました扁桃腺の中の粘液腺のことを紹介され、扁桃腺の中に粘液腺を初めて記載したものは日本人であつて、其の人が此所